

224

膵シンチグラムの検討

- ERCPとの対比 -

札幌厚生病院 消化器科

○堀田彰一, 石 昌事, 塚越洋元
八百坂透, 須賀俊博, 三和公明
村島義男

斗南病院 RI室

鈴木順一, 若林裕宏, 中村孝行

はじめに; 膵の放射線学的検査は, 種々のものがあるが, スクリーニング検査としては, 従来より, 膵シンチグラムが広く行なわれているが, 近年内視鏡的逆行性膵・胆管造影 (ERCP) が, 施行されている。今回, 我々は, 膵シンチグラムと ERCP を施行した症例について, 比較検討したので, 症例をまじえ報告する。

対象及び検討方法; 検査対象は, ERCP の手技が比較的安定した 1975年1月より, 1978年3月までに, 当科に入院し, ERCP 及び膵シンチグラムを施行し, 臨床症状・検査所見・手術などにより診断した 186 症例である。その内分けは, 膵癌 16 例, 慢性膵炎 88 例, 胆石症 18 例, 慢性膵炎を伴う胆石症 11 例, その他 53 例である。検討方法としては, 膵シンチグラムを, 膵描出の程度に応じ, 正常, 軽度・中等度・高度機能低下, 限局性欠損の各群に分類した。又 ERCP においても, 主膵管及び分枝の変化により, 正常, 軽度・中等度・高度膵管異常, 閉塞の各群に分類し, 膵シンチグラム像を比較検討した。

結果; 縦に ERCP, 横にシンチグラムの各群をとり, 186 症例について検討すると, ERCP の正常例中, シンチグラムが正常であった症例は, 84 例中 48 例 57.1% であつた。ERCP が軽度異常例中, シンチグラムが異常を呈したものは, 43 例中 28 例 65.1%, 中等度では, 21 例中 18 例 85.1%。ERCP が高度, 閉塞の各群では, 全例シンチグラムで異常を示した。慢性膵炎 88 例については, シンチグラムで異常を呈した例は, ERCP 正常群では, 24 例中 13 例 54.2%。MIP 群では, 29 例中 20 例 69.0%。MOP 群では, 17 例中 15 例 88.2%。ADP 群は, 全例異常を認めた。膵癌の 16 症例では, シンチグラム上, 限局性 10 例, 軽度・高度機能低下が各々 3 例ずつであつた。

結論; 膵シンチグラムは膵の機能と形態を, ERCP は膵管の形態を示すものであるが, 両者の所見に高い相関関係を認めた。膵シンチグラムは, 読影上, 種々の問題点があり, 慢性膵炎と膵癌との鑑別診断が困難な症例もあるが, 高度慢性膵炎と膵癌では, 全例異常を認め, スクリーニング検査としての意義は高いと思われる。

225

耳下腺腫瘍における ^{99m}Tc および ^{67}Ga スキャンの検討

慶大 放

高木八重子, 久保敦司, 小須田茂,

近藤 誠, 橋本省三

慶大 耳

村上 泰, 原口茂徳

耳下腺腫瘍をきたす疾患には, 腫瘍, 嚢腫, 耳下腺炎などがあり, これらは触診を中心とした臨床所見で診断が可能なが多いが, 時に鑑別に迷うことがある。

今回, 我々は昭和 48 年 1 月から昭和 53 年 4 月までに耳下腺部腫瘍を主訴として来院した 92 症例について, $^{99m}\text{Tc}-\text{O}_4^-$ による耳下腺スキャンを施行し, さらにその内大部分に ^{67}Ga スキャンおよび一部に $^{201}\text{Tl}-\text{Cl}$ スキャンを施行した。このうち確定診断のついた 60 例について, 耳下腺の核医学的検査法の有用性を検討した。

60 例の内訳は悪性腫瘍 8 例, 良性腫瘍 16 例 (内 Warthin 腫瘍 2 例), 耳下腺炎 24 例, 嚢腫 3 例, 耳下腺周囲リンパ節炎 3 例, その他 6 例である。

テクネシウムによるスキャンは $^{99m}\text{Tc}-\text{O}_4^-$ 5 mCi を静注し 10 分後, シンチカメラにて頭部正面および両側面スキャンを行い, ガリウムスキャンは ^{67}Ga citrate 1 mCi 静注し 48 時間後に 5 インチスキャナーにて頭部正面および両側面スキャンを行った。症例によっては, ^{67}Ga -citrate 静注後 30 分の early scan をも行った。

悪性腫瘍では 8 例中 7 例 (87.5%) に腫瘍側耳下腺に ^{99m}Tc スキャン上欠損が認められ, ^{67}Ga スキャンを行った全例に強い集積が認められた。良性腫瘍の大部分は混合腫瘍で 14 例全例に ^{99m}Tc スキャン上明らかな欠損像が認められ, ^{67}Ga スキャンを行った症例のうち, 唾液腺造影, 又は生検を行った症例を除くと, たゞ 1 例のみに ^{67}Ga の集積を認めた。Warthin 腫瘍 (2 例) では 1 例は腫瘍に一致した強い ^{99m}Tc の集積を示し, 他の 1 例では正常耳下腺と同程度の集積を示した。耳下腺炎 (24 例) では ^{99m}Tc スキャン上欠損像を呈するものはなく, ^{99m}Tc の集積に関しては増加するもの, 正常側と等しいもの, 低下を示すもの等さまざまであった。

以上の結果から ^{99m}Tc および ^{67}Ga による耳下腺スキャンは, 各種耳下腺腫瘍の鑑別診断に有用であると考ええる。